

北爪 潤

Jun Kitazume

日常の堰を切ってあふれ出す災い、争い。
嘘のような、現実離れした現実において
人と人は隔離を余儀なくされ空気は閉塞するばかりです。

この日々のくらしの只中
私たちは瞬時に意志を発信、共有し世界の扉を開く魔力を手にする一方で
お互いを監視、分断し、異端者を吊るし上げる…
魔女狩りのような光景を目の当たりにしています。

現代社会が産み落とした得体のしれない怪物と共存する日常
またこの状況下に生きる私たちの両義的な肖像としての『魔女』

これらが近作のイメージの核になっています。